Hermann Gottschewski

東京大学　平成24年度冬学期　総合科目「比較文化論」 『ドイツ語文化圏と歌』

月曜2限　アドミニ棟学際交流ホール

第10回　平成25年1月15日

ドイツの19世紀のリート文化：連作歌曲（Liederzyklus）

①　歌曲集（Liedersammlung）と連作歌曲（Liederzyklus）

作品が「歌曲集」にまとめられる理由

　・一曲が短いので単独で出版するよりまとめて出版する方が合理的だから

　　・この場合は歌曲集の構成を決めるのが必ずしも作曲者自身ではない

　　・ただし単独で歌曲を出版するメディアもある（１枚の単独出版、音楽雑誌等）

　・演奏者や愛好家にアピールするために、同じタイプの歌曲を集めること

　　・一人の作曲家、一人の詩人、同一のテーマなどのコレクションがある

　　・「何何全集」などもある

作曲家自身が歌曲集を出版し、作品番号を付ける場合もあるが、原則として「歌曲集」は一つの作品としてではなく、複数の作品の組み合わせと見なされる。

それに対して連作歌曲は複数の歌曲から構成される一つの作品と見なされる。

ただし「歌曲集」と「連作歌曲」の境界線を引くのは必ずしも簡単ではない。

②　「連作歌曲」と判断するかどうかの様々なポイント

2.1　作曲家自身の主張（全体のタイトル、連続の演奏への指示など）

2.2　詩が連作であるかどうか。そうでない場合は詩の順番が計画的に整えられているか。

2.3　音楽的に統一性や連続性があるか。

③　19世紀前半の有名な連作歌曲

ベートーフェン：《遥かなる恋人に寄す An die ferne Geliebte》（６曲、1816年、Aloys Isidor Jeittelesの詩による）

シューベルト：《美しき水車小屋の娘 Die schöne Müllerin》（20曲、1823年、Wilhelm Müllerの連作詩集による、ただし一部省略）

同：《冬の旅 Winterreise》（24曲、1827年、Wilhelm Müllerの連作詩集による、詩集の発表に関連して第一集と第二集から構成される）

シューマン：《詩人の恋 Dichterliebe》（16曲、1840年、Heinrich Heineの詩集から抜粋し、シューマンによってアレンジされた）

同：《女の愛と生涯 Frauenliebe und -leben》（８曲、1841年、Adalbert von Chamissoの連作詩集による、ただし最後の詩を省略）